

# 絵になる海・世界遺産コモド諸島

～ 激流の先のおとぎの国への訪問～

## 今回のスケジュール

- 9/25 ガル・ダイドネシア航空にてデンパサールへ (サヌール泊)  
9/26 ヌサペニダにてマンボウ狙い2ダイブ (サヌール泊)  
9/27 ヌサペニダにてマンボウ狙い3ダイブ (クタ泊)  
9/28 10:00 国内線デンパサールよりラブハンバジョーへ  
11:30 到着後、空港より車で約5分の港へ  
昼食後 「Sebayur Kecil」 (チェックダイブ)  
変則スケジュール。ナイト(取材) 2本目 モブラダイビング  
9/29 北のフローレス海にてダイビング 平均水温 28～29度  
1 朝食前 「Caster Rock」 コモド NO.1 有名大物魚影ポイント  
2 朝食後 「Crystal Rock」 大物魚影ポイント  
3 昼食後 「Castel Rock」 本日2回目 大物ポイント  
4 夕食前 「Gililawa Slope2」 小さな島と島間のスロープポイント  
追加ダイビングで5本目モブラナイトをしたのは女性人のみでした。  
9/30 南のインド洋にてダイビング 平均水温 24度  
1 朝食前 「Canibal Rock」 ソフトコーラルがまるでお花畑。  
2 朝食後 「Torped Alley」 砂地と珊瑚がきれいなポイント  
3 昼食後 「Banana Island」 島の形がポイントの由来  
4 OP 「Nusa Kode Wall」 外洋ポイント 流れ強いも・・・  
5 ナイト OP 「Nusa Kode Slop」 ナイトはまたさらに神秘的  
10/1 南マントポイントから北エリアに 北上  
1 朝食前 「Manta Alley」 ブラックマ・ハーフ・ホワイトの3匹が！  
2 朝食後 「Lehok Sera2」 沈潜ポイント ツバメウオがいっぱい  
3 昼食後 「Pink Beach」 上陸する場所とは少し違う場所  
ピンクビーチへ上陸(表紙 写真)本当にキレイ  
4 ナイト OP 「Pink Beach」 コモドのナイトはかなりおもしろい  
10/2 ダイビング最終日  
1 朝食前 「Batu Blong」 コモド島とリンチャ島間ポイント 大物多  
2 昼食前 「Tanawa Kecil」 テーブル珊瑚が美しい。癒し系ポイント  
昼食後 リンチャ島上陸コモドラゴン見学  
夜はトップデッキでバーベキュー！！  
10/3 器材を片付けツアー中の精算。10時半下船までフリータイム  
12時 国内線にてラブハンバジョーよりデンパサールへ  
13時半 到着後フリータイム クタでのショッピング ケチャダンス見学  
22時 ガル・ダイドネシア航空 ジャカルタ経由にて 成田へ  
10/4 8:50 成田着 帰国

今回、バリ等ヌサペニダのマンボウ狙いのダイビング後、コモドクルーズ乗船というダイバーにはたまらない研修の機会を頂きました。そこには、今までには体験したことがない海や陸の光景がありすっかり一人のダイバーとして楽しんでしまいました。今回の研修をお客様目線で、ご案内できたらと思います。

1日目、デンパサールの空港に到着したのは、ほぼ正刻。今回は8日間以上の滞在なので25ドルのビザを購入。8日間の基本プランの場合は7日間までのビザ、10ドルになります。ほとんどの観光客が10ドルで購入するので、ビザカウンターでオロオロしていると係員が「10ドル、10ドル」と声をかけてきます。8日間以上の方は購入間違いに要注意です。ビザ代は空港を出る前に支払いなので日本でドルの用意が必要ですが、ビザカウンターの前は入国カウンター。すでに長蛇の列です。土日ですと、到着から空港をでるのに2時間は見ておいたほうが良いでしょう。ターンテーブルでは頼んでないのに荷物を運んでくれるチップ目当てのポーターがいます。高いチップを要求されることもあるので要注意です。空港から出ると今回お世話になるPT LUMBA LUMBAの現地係員が出迎えてくれます。他社の係員も大勢いるので、サザンスタークルーズの看板を目印に集合しましょう。

魅惑の  
ピンクビーチの元  
オルガン  
パイプコーラル



通常プランでは空港から車で約5分、クタ地区にあるホテルにチェックインし、翌日の国内線でコモドへ向かうこととなります。今回は変則プランでサヌール地区のホテルへ向かい明日からヌサペニダでのダイビングに備えます。バリのダイビングは数箇所有名な場所がありますが、空港から近く1番手軽なのはヌサペニダだと思います。また、サヌール地区はポイントから近いいためヌサペニダでのダイビングが目的な方には便利です。コモドクルーズの前後にバリダイビングはお時間がある方なら、ぜひおすすすめしたいです。空港からサヌールまでは約20分、すっかり日は暮れていました。宿泊はガゼボビーチホテル場所はサヌールのメイン通りに面しているため食事や買い物に便利ですが、水周りや設備が若干劣るためリゾート志向の方には不向きかもしれません。しかし、素朴ながらもバリらしい雰囲気でも価格もお手頃なため、ダイビング目的の場合にはお勧めです。





翌朝は、朝食後7時半のピックアップです。今回はマンボウ狙いだっただけ、現地ショブが海況に合わせて時間を調整してくれました。すぐにフックトが着られる格好でロビーに集合。車で約10分ポートのあるビーチに到着します。港を想像していたのですが、ほとんどのショブが人力で浅瀬に浮かぶポート荷物を運んでいました。当然、お客様も膝下くらいまで水に入り、ポートに乗り込みます。ちょっと楽しかったです。マンボウ狙いのポイントまでは約1時間。外洋はけっこう揺れました。ポイントにはクリスタルベイ(右サイド)水温は25度、透明度もまずまず。今回はサザンスターのガイド唐澤氏も同行。モトに負けずおとらずの珊瑚の美しさと魚の多さだとのこと。バリのダイビングもあなどれない。私としては青の濃さに感動と冷たい水ながらバリのダイビングを楽しんでいると、現れました。ドロップオフのたぶん35分くらい。少し距離が遠かったので写真には残念ながら収められませんが、ヒレの大きさからかなりのサイズだったのでは。とりあえず見た。やはりいるんだ！という感動で一本目終了。次は絶対写真に撮りたいと決意し一本目へ。同じクリスタルベイ(左サイド)一本目の様子からおそらくサーモクラインを超えた、水温が下がったドロップオフ側にてくるはずと判断。15Mくらいをキープし、ドロップオフ沿いを泳ぎます。すると、視界に黒い影が。だもー思わず、周囲をキョロキョロ。取材やガイドさんを差し置いてとにかく近い！

でも、今回は取材の同行、つまり現地ガイドも含めて皆さん7人の集団。ファンダイバーとしては追って良いかの判断はできないわけで…。「フックト」と立ち止まっていると、遠くから現地ガイドが追え、カメラカメラと必死のジャスチャーサイン。OKがでたら不安はありません。必死のフィンキックでマンボウのもとへ。冷たさや耳抜きを忘れるほど必死に撮ろうとしてました。でも、フックトが光るたび、とんとん深い海の底へなかなか回りこめず、結局横からの写真しかとれませんでした。ほとんどしを動かしてはいないのに本当に速い。とても追いつけないなと思いついて、ダイコンをみたら深い！上がらなきゃと思いついて見上げたら、ハタタデタイの寄り添う姿が微笑ましかったです。この日は、2本で終了。海から上がると現地ガイドがガッツポーズ！至福の瞬間です。ポートでサヌールのビーチに戻るとシャワーを簡単に浴びホテルへサヌール地区宿泊だと帰るのも早く、すぐ部屋のシャワーが浴びられます。やはり便利です。

2日目、欧米の方が多いバリ、朝から海岸をシロキングする姿を見ながら朝食はナシコレン。美味しかったです。ピックアップは昨日と同じく7時半。マンボウ撮れるまで潜るから！とガイドさんに伝え、今日もマンボウ狙いです。唯一違うのは参加メンバー。唐澤氏は1日早くモトへ旅立ち、1航海前に乗船した弊社のお客様がバリのオフショナルダイビングで一緒でした。また、現地参加でヒューストンからお客様もいらして、楽しい船上となりました。さて肝心のマンボウですが出てくれたものの、1日目より距離は遠く、現地ガイドもモロモロマンボウ(お休みね〜アメリカ人もサンフイックシユマンボウ(日曜日)〜)と呼び名は違えど残念な結果は変わらなかつた。生き物ですから仕方ないですが…。マンボウシーズンは7月〜10月。来期はクルーズ毎航海に前後バリダイビングを催行予定。モトの海とはまた違うバリのダイビングでモロモロに会ってみませんか？



2日目の夜は、通常プランのお客様が日本から到着する時間に私たちもクタへ移動。宿泊先は「ハリストウバン・バリ」というオレンジ色が全面にでている空港から10分ほどのオシャレなホテルです。バリに到着すると送迎車でクタエリアのホテルへ移動。ロビーで明日の説明や国内線の手ケットを手渡します。その後、夕食は自由行動。近くには日本語の通じるレストランもありますし、現地係員も案内しますので安心です。私もおすすめて頂いたシーフードレストランに行くので、今回一緒に一緒するお客様の半分の方がいらっしまいました。モトクルーズは初日、同じホテルに宿泊するため乗船前に皆様すっかり顔見知りになっている方が多いようです。シングルダイバーには心強いツアーです。ご飯も美味しく頂き、明日からのダイブクルーズに備えます。



船



内



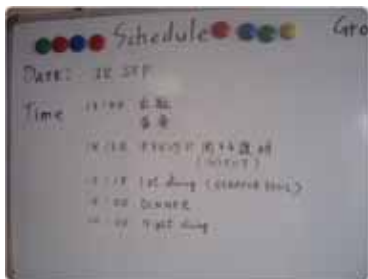
の



様



子



クルーズの主な時間の流れは客室とダイビングスペースの間にホワイトボードに書かれます。追加ダイビングの参加もポイントが発表され各自で記入する形式です。ミネラルウォーター・紅茶・コーヒー・お菓子(特にお煎餅は人気)は無料をご用意。世界遺産の海を守るため、できる限り再利用を推奨。皆様のご協力をお願いします。



エ



コ



が



い



っ



ぱ



い



ホテルの朝はバイキングです。7時半ピックアップ。荷物もロビーへ集めておきます。送迎車に乗り空港へ国内線ターミナル入り口で荷物のセキュリティチェックを受けてからチェックインカウンターへ国内線の機内預け荷物は20kgまで。オーバーはけっこう厳しくとられます。1キロにつき11000ルピア。日本円で約1200円(手荷物と一緒に体重を測った後写真右上現地通貨での支払いとなります。手荷物の重さに制限はありませんが写真下)機内の荷物入れはとても狭くあまり大きいと膝に抱えておくことになり要注意です。階に上がり国内線空港使用税3万ルピアを支払います。電光掲示板で搭乗ゲートを確認しバスに乗って移動後、プロペラ機に搭乗(写真中)機内は冷え込むこともありますので上着があると便利。約1時間半でラフハバシヨの空港へ到着します。



ラフハバシヨに到着するコモドの看板が！まずはここで記念撮影です。空港は待合所のような場所。それでも、リピーターさんいわく屋根もついて立派になったそう。これも超過料金のおかげらしいです。飛行機からの荷物は大きなキャリアに入れて人力移動。途中キャリアのタイヤがパンクして立ち往生。すると、体格の良い欧米の観光客45人がこれまた人力で助っ人へ。すいすい動く姿をみて思わず歓声があがりました。最近、コモドはネイチャーツアーが人気で欧米からの観光客が増えているそうです。確かにリュック姿の観光客を多く見かけます。デンパサールからの国内線も増便したようです。空港から約10分でラフハバシヨの港へ到着。行きと帰りは一方通行なので風景に注目です。港に着くとまた人力で荷物を船内へ乗船すると、まず靴を脱ぎダイビングへ靴箱の上には灰皿。喫煙場所はここだけです。ウエルカムドリンクを飲みながら、船内 主な日程のフリーフィングを受けます。



北エリアの夜はサザンスター号の明かりに誘われて、モブラ(ヒメイトマイキエイ)がクルーズ周囲に集まります。ビールを片手に船内から見るのも良いですが、せっかくならナイトダイビング！モブラの乱舞を観察に夜の海へ繰り出しました。モブラ狙いのナイトダイビングは、サザンスター号の後方(ダイビングデッキ)からゆっくり階段を降りるようにエントリー。暗いので足元に注意です。ダイバーのライトにも反応して、運が良いと目の前でたくさんのモブラの乱舞を目にすることができます。当然ですがプランクトンが多いため、肌の弱い方は特にグローブやフードなどがゆみ予防が必要です。私はフードをしていなかったため、顔がかゆくなりながら、ナイト後のビールを頂くことになりました…。ちなみにサザンスター号では、深夜0時がリビングでの消灯時間。それまでにはお部屋でおやすみくださいとインフォメーションがあります。しかし、ほとんどの人が消灯時間前までにお部屋へ就寝されていました。ダイビングクルーズは1日3本以上潜るハードスケジュール。体力勝負なので各自の体調管理が大切です。



夜のお楽しみは  
美味しいビールと華麗なモブラの乱舞！



昼食後、少しお部屋で休憩して午後からいよいよダイビング。客室と同じ階にダイビングデッキがあります。ホワイトボートに書かれた時間がフリーフィンク開始なので、それまでにボートに乗れる恰好でスタンバイ。カメラの水没チェック用水槽・エアウオッシュャーも完備だから安心。フリーフィンクはまるで唐澤氏の授業の用。終始笑いがありながらも安全第一の説明です。器材はクルーが小型ボート(S/S1, S/S2と呼んでいました)に運んでくれます。チームごと2艇に分れ軽器材のみ持ち乗船(写真左)エントリー方法はバックロールで一斉に。みなさん1〜2までシク口の口に思いつたりでしたが、もし出遅れたら少し待つてからエントリーします。基本はフリー潜行で1本目はチエイクタイプもかねた「SE BAYUR KECEL」まったり系のダイビングでゴールドスベック・ジヨーフイッシュが可愛いだどちらかというマクロポイント。今日明日は北エリア。水温は27〜28と暖かく5ミリだと暑いという方もいらっしやいました。海から上がると、もう17時。今日は1本で終了。というわけでお酒好きな方が多かった今回のクルーズは夕食前から缶を開ける音が、リビング前のサンデッキが人気で、皆さん自然と集まります。夕日をバックに会話もはずみました。飲み物は冷蔵庫から各自で取り出し、ノートに記入。最終日にまとめて精算となります。南国フルーツ食べ放題もお好きな方には好評でした。



# 大物・魚影の濃さもハンパじゃない

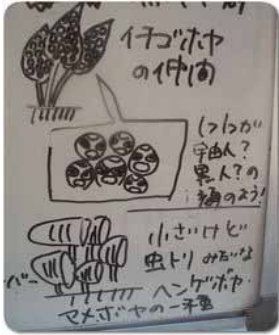
クルーズ2日目、6時半にデッキ集合。潮流やポイントにもよりますが、1本目はほとんど毎日の時間に集合でした。1本目は「CASTLE ROCK」隠れ岩のポイントで、流れの影響を強く受ける「モト」の代表ポイント。わくわくしながら潜行するとそこには・・・流れはあまりない。あれ？と思いつつもカスミラジ・ロウニンアジは出てくれ、タカサギ系の魚もまったりはいまいました。周囲どこを見ても魚。魚。本日に魚影の濃いポイントです。寝かけた体にはちょうど良い流れの強さでした。1Fシフト後は小型ポイントに本船へ戻ります。器材は同じくクルが運んでくれるので身軽。チームごとにも本船に戻るので時間差で30分の温水シャワーも上手く使えました。また、本船の後ろには3つ水シャワーがあるので暖かな北エリアはこれで充分かも。ちなみにトイレも3ヵ所。扉にある札を使用中は裏返して使うルール。ガイドの唐澤さんが民宿によつて「そー」と話していましたがまさに！伊豆の民宿に来たよつでした。

ダイビング後の食事は本日に美味しい。セラー・サザンスター号のシエフは日本で日本食の勉強をしてきたといつだけあって、味つけはかなり日本人好み。今までの海外ダイビングツアーのなかで1つを争うほどの美味しかったです。食事はバイキング方式。お好きなものを好きなだけ。つい食べ過ぎてしまいます。メニューは黒板に毎回書いてくれるのでわかりやすく、また、ロカルフードはスタッフの方が詳しく教えてくれます。

食後は、ほとんどの方がリビングで「ロカルフード」はお菓子を食べながらおしゃべりタイム。本日に楽しい時間です。

2本目は「CURRY-A-LACK」1本目と同じく「モト」の大物有名ポイント。潮流の関係で両方は潜れないこともあるようです。1本目と同じくらいの流れ、今度はマクロ狙いで「クミシー・ホース」・「ソノラの幼魚が可愛い。流れが強いときは背にこがみついて終了」といふこともありました。

昼食後の3本目は「CASTLE ROCK」1本目あまり群れのもとまりがあまりいなかったので、再チャレンジ！結果は・・・はい、流れました。エアが横へ、体も横へとりあえず、時間によって流れが大きく変わる「モト」の海を直に感じました。ロウニンアジの捕食アタックは、何度も見てもワクワクします。



# 北エリアは暖か水温。流れも・・・



サンセットの4本目は「GILLAWASTONE」スポット沿いをまったりと泳ぎます。イナズマヤッコ・ナデヤッコ・キリメヤッコ・ロクセンヤッコなどカラフルな魚達がダイバーの目を楽しませてくれます。ガイドさんいわく、同じ海でこれほど様々な種類のヤッコが見られるのも珍しいらしいです。また、同じく「モト」の海の特長として、インド洋とフロレス海の2つの海流が交わり合っていることにより生まれるハイブリットの魚も貴重です。私は、まだまだ写真の腕も魚の知識も少ないため、そのすばさをこのレポートではご案内できないかもしれませんが、「モト」の海の素晴らしさ、貴重さは世界各地の海を潜ってきたダイバーほど実感するのかもしれないです。

夕食後のナイトは昨日と同じく、モフロ狙い。ホワイトポイントに立候補したのは女性陣ばかりでした。すでにビールを片手にリビングから手を振る男性陣。その光景もまたクルーズの楽しい「コマタ」な思い出です。明日は一気に南エリアへ、水温もガクッと落ちて平均23度。寒さ対策が必要です。寒がりな方は5MM以上のウェット・フットベストの用意をお勧めします。

クルーズ3日目、気温も寒いのかと思いましたが、あまり変わらなすほっと一息。防寒対策の恰好のため早く潜りたいと汗を掻いている方もいらっしゃいました。1本目は「CASTLE ROCK」ホワイトポイントには謎めいたイナズマととも「色とけしきを楽しむ！」の赤字が・・・の研修に来る前、「モト」の海の特徴はと聞かれて、ソフトコラルやホヤがとてカラフルですとお客様にはご案内していました。しかし、はつきり言うことができません。そして何よりも海の中ではない光景が見られるとは思っていませんでした。寒さを忘れるほどとこを撮っても絵になるポイントでした。



# ヤッコの宝庫&マクロも楽しめる



Photo by Kyu Furumi

今回はいつもより水温は高めで24度。寒がりな私もなんとか頑張れました。2本目は、ウミウシが多く、砂地も綺麗な「TORPED ALLEY」デジタルカメラでも赤く綺麗な珊瑚が撮れました。3本目は島の形がポイント名の「BANANA ISLAND」緩やかなスロープのポイント。イエローフィンフラッシュャーやコモド全域に見られるブリーカーズダムゼルなどスズメダイやハゼ類多く、にぎやかな熱帯魚の水槽をイメージさせるポイントでした。4本目「NUSA KODE WALL」普段はあまり潜らないポイントで、NUSA KODE 島の外洋側というそのままのポイント由来。なにが出るかわからない、砂地もありアケボノハゼもいるということで潜行も、今回は残念。ただ、コモドらしい？激しい流れを体感することができました。

今日のポイントは、コモドドラゴンが生息するリンチャ島南側。そのため運が良いと、島を見ると海岸を歩くコモドドラゴンが目撃できます。ちなみにトップデッキには望遠鏡があるので、水着やタオルを干すついでに覗いてみるのも楽しいです。



# 本当に海の中？

# 不思議な世界がニジュド。



5本目「NUSA KODE WALL」のナイトはまた神秘的でした。リピーターさんいわく、南リアでナイトはずせないとのこと。ブダイが膜を張っている所やクマノミの可愛いお休み姿。コモドの海のセミアビはいつも以上に大きい気が…。夜にお会いすると少し怖かったには私だけでしょっか。ナイトが終了したら、温まるのはやはりお酒。クルーズに慣れた方も多く、梅酒やおつまみなどを持参されている方もいらっしゃいました。

クルーズ4日目。1本目はマンタポイント「MANTA ALLEY」100%とはいかないものの、ほぼマンタが見られるクルーニングポイントです。今回は先頭にホワイト、真ん中にハス、最後にブラックと見事なマンタの列を見ることができました。1匹1匹がとも大きく、最後の方は真上に接近！圧倒されてしまいました。

2本目は「LEHOK SERA」ツバメウオが沈船周囲に群れ、砂地にはゴルドスベックジョーフィッシュがひょっこり顔を出している癒し系ポイントでした。

昼食後は世界でも珍しいピンクビーチへ向け北上。南のエリアとさよならします。ピンクビーチはバツアローフィッシュが珊瑚(表紙参照)を食べていた糞が積もってきたと言われています。それを聞いてしまうとイメージが崩れてしまうかもしれませんが、貴重ですばらしい景観には変わりはありません。特に高台からの眺めが絶景でした。ピンクビーチへは、小型ボートで行きますので濡れても良い恰好で日焼け止め対策も必要です。スノーケルが好きな方は3点をお持ち頂いても楽しいと思います。



Photo by Kyu Furumi



船に戻り、3本目に向けて船はさらに北上。水温も同じくアップ！本日に不思議な海域です。3本目を潜る頃にはすっかり夕方。今日は4本目のナイトとともに「PINK BEACH」です。残念ながら陸地のピンクビーチのようにはっきりピンクではありません。浅瀬のマクロ系ポイントで、ナイトはまったく系でしたが、サンセットはけっけつな流れてました。同じポイントであっても潮流差が激しいのも「モド」の特徴かもしれません。

クルーズ5日目。本日ダイビング最終日です。1本目「BAUB LONG」北エリアの大物ポイント。個人的にはこのポイント流れはありますがお気に入りです。朝一番の大物回遊魚の目撃はテンションが一気に上がります。朝食後、ラストダイブは癒し系ポイント「ANAWAKALIC」クルーズの最後はこのポイントでしめることが多いみたいです。残念ながら流れがあり、まったくダイビングとはいきませんでした。ダイビング終了後は器材を洗ってダイビンググッズなどを干します。明日のパッキングまでには天気が悪くなければ十分に乾いてしまいます。

朝食後は、いよいよリンチャ島に上陸。「モドドラゴン」に会いに行きます。服装ですが、草原を歩くのでできればストカー、長ズボンをおすすめします。日差しも強いので帽子など日焼け対策をして下さい。30分ほど歩くので、水分やタオルもあつた方が良いでしょう。また、「モドドラゴン」は赤い色に反応するそうなので、上陸する際は避けたほうが良いでしょう。「ピンクビーチ」上陸と同じく小型ボートでリンチャ島へ上陸です。唐澤さんの体を張った「モドドラゴン」の逃げ方に皆様大笑いの中カニザルもお出迎えしてくれます。レンジャーハウスで説明を受けた後、「モドドラゴン」を目指して歩くと、思いきや、すぐその家の軒下でお昼寝中でした。確かに大トカゲです。様子をみながらじわりじわりと前進、写真を撮ります。「モドドラゴン」はその後ほとんど動かさず安心していたら、急に立ち上がり、歩き出した時はちょっとドキドキでした。



## 海もすごいけど陸もすごい



リンチャ島から戻り、本日のディナーはトップデッキでのバーベキューです。クルーズ最後の夜は現地の焼酎アラックを飲み、ガイドさんやクルーの歌、踊りを楽しみました。途中、お客様もダンスに参加。普段では使わない動きをするバリダンスはかなり難しかったです。この日は遅くまで最後の夜を楽しんでいらつしやいました。



## 踊って



## 夜は更けて...

## 食べて



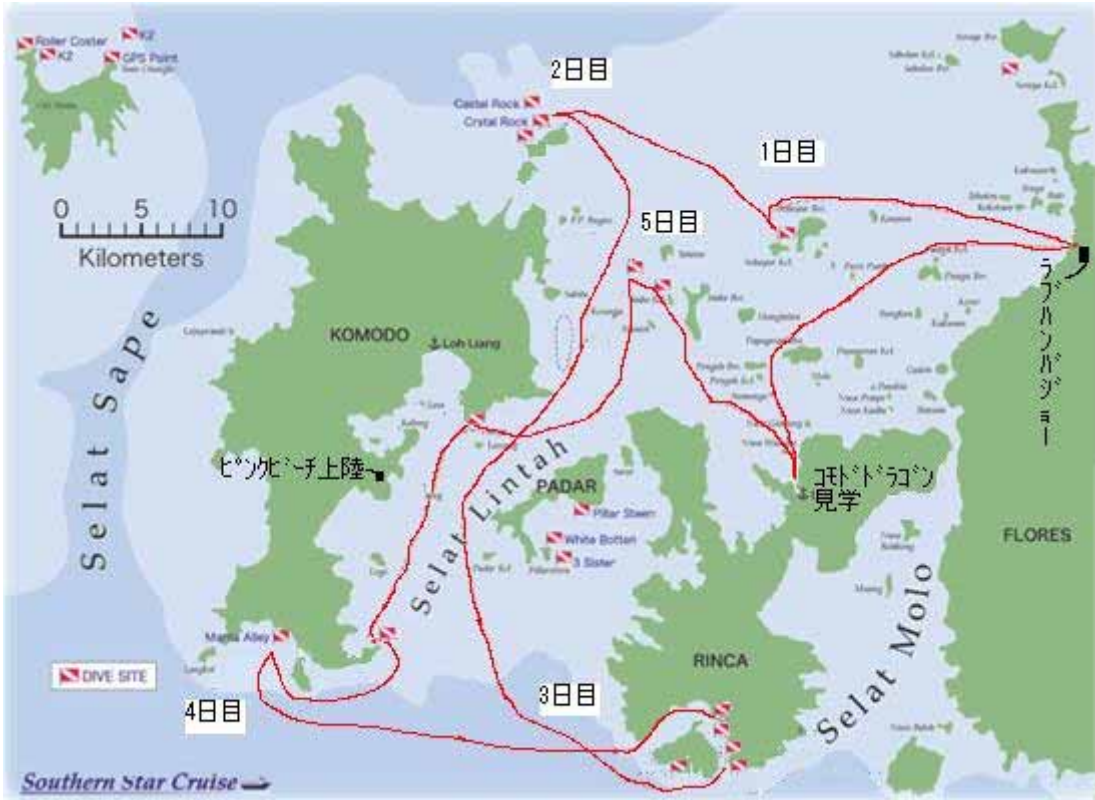
## 語って



最終日の朝はゆっくりです。10時の下船までに追加ダイビング代やドリンクなどの清算をします。「モド」自然保護基金、国立公園入場料もこの時に支払います。支払いは現金のみ、円やルピアの使用もできますが、できればドルの統一通貨で支払い頂くと清算がスムーズになります。パッキングも同じく10時まで済ませてお部屋の外に置いておくと、クルーが車に運んでくれます。忘れ物がないうつにクルーとサザンスター号にお別れし、ラブハンパジヨの空港へ向かいます。行きの道とは違い、街中を通るので風景にも注目です。空港に到着すると、行きの国内線と同じく荷物を預けます。帰りは荷物が重くて30キロ10キロオーバーなので、110000ルピアの支払いです。あとはラブハンパジヨの空港税5000ルピアをカウンターで支払います。空港税の支払いは、おはさんご名の間にお絵かきしている子供がいて、日本では考えられませんが微笑ましかったです。1時間のフライトまで少し時間があったので、小さなカフェで名物フロレスコーヒーを飲みました。クルーズ船内でも売っているのをおみやげにはおすすめです。

デンパサル空港に到着後、ツアーとしては解散となります。ほとんどの方は船内でオプションツアーに申し込まれていました。お帰りの国際線フライト時間によりですが、お申込の多いオプションツアーとしては、ウルワトゥ寺院でのケチャックダンス、タナロット寺院のサンセット鑑賞、あとはエスエ等でしょうか。お申込は前日の14時までにして頂ければ大丈夫です。また、「モドクルーズ」は8日間が基本日程なので延泊し日曜日も帰着するのも楽しいかもしれません。せっかくきたのですから、バリ観光も楽しみたいですね。私は唐澤さんもお勧めのケチャックダンスを一度見てみたい、お客様と一緒に参加しました。ダンスは日が落ちる夕方6時頃からなので、それまでの間はクタシヨビングでおみやげを買つてもできます。また、大きな荷物は空港に預かりますので楽チンでした。

# 今回の航海ルート



## 帰国便までの時間も有意義に



ケチャダンスが終わって空港へ戻ると20時。ここから先もまだフライトまで時間がある方やチェックインにちょうど良い方それぞれ分れます。現地スタッフがお時間に合わせてアレンジしますので宜しければご相談ください。私は3時間のフライトだったので、そのままチェックインとなりました。最後にナンパサル国際線空港税15000ルピアを支払います。空港で両替もできますが、空港税にかかる費用は別にしておく方が良いと思います。空港内のお土産店では、ルピア、ドル、円いずれも使えましたのでルピアをできるだけ使って、不足分を他の通貨でという方法も良いと思います。まだ、インドネシアに行かれる方は良いと思いますが、なかなかルピア使用の機会は少ないですからね。バリからの帰国便はほとんどが機内泊となります。また、ガルダインドネシア航空の成田発着便はジャカルタ経由するため、一度飛行機を降りて再搭乗となります。少し休んだらすぐに降りなくては行けなかったの少し眠かったです。乗り継ぎは分かりやすく、NARITAと矢印が出ているので問題ありません。係員がしっかりと乗り続けているか確認をする際、重客リストが模造紙だったのでアナログ間にあふれていました。成田に到着するのは、翌朝になります。

## お世話になりました



唐澤 百年実さん



木村 知代さん



永島 清美さん

今回、貴重な研修の機会を頂き、ダイナミックさを直に感じたり、珍しい生物達と出会えたりと、コモド諸島の海の様々な姿を体験することができました。これも、ダイブクルーズという広域の海を潜れる素晴らしいダイビングスタイルとコモド諸島の海の特徴を楽しく教えてくれる現地スタッフさんのおかげだと思えます。皆様も世界遺産の海に潜りに行きませんか？

また、最後になりましたが、一緒にさせて頂きました全てのお客様へ感謝の言葉とともに、またどこかの海でお会いできたらと思います。ありがとうございました。